



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 135
2012. 8

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂元裕

ニュース担当 北川智久

E-Mail : kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

理事長再任のご挨拶

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 宮坂元裕

平成24年4月22日第2回通常総会において、今後2年間、責任者をさせていただくことになりました。是非、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。日本美術教育連合は公益法人認定後、財政はひっ迫し、事業も軌道に乗っていない状態です。このまま投げ出すには忍びなく、「止むを得ず」という気持ちでお引き受けいたしました。

初めに、昨年12月、ご寄付の願いを申しあげましたところ多くの会員の皆様のご協力をいただきまして感謝申し上げます。おかげさまで本年度より寄付に対して税の優遇処置がいただける団体となりました。公益社団法人は税制的優遇処置を受けられるのですが、法務局、税務署より「会員より寄付を受けた実績のない団体」に税の優遇処置手続きは行えないという指摘を受け、急遽ご寄付をお願いしたものです。

さて、私が今後2年間で行いたいと考えていることの概要を述べさせていただきます。

- 1 メールなどにより、できる限り多くの会員との相互交流を密にし、研究活動の共有化を全国に広めたい。
- 2 新しい企画は、当初は小規模で始め、参加者の意見を取り入れながら改善し、軌道に乗った時に、大がかりに展開をしたい。
- 3 会員が良いと思っている部分は存続し、変えた方が良いと思っている部分は、大胆に改善したい。

そのためには、ぜひメールアドレスなどの「相互交流」方法のご登録をお願いしたいので、事務局より依頼がありました時はご協力いただきたくお願い申し上げます。上記1・2・3の提案は、全ての会員が参加できる公益社団法人日本美術教育連合をめざしてより良くしていくための第一歩であります。

第46回 日本美術教育研究発表会 2012 案内

1. 日時 平成24年10月14日(日) 9時～17時30分(予定)

2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス16号館

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)

4. 後援 文部科学省 (申請中)

(14ページの関連記事詳細をご参照ください)

【緊急告知】「会員数世界最多を誇る NAEA 会長の来日講演」

この度、NAEA (National Art Education Association 全米美術教育協会) 会長ロバート=セイボル博士を招聘し、公益社団法人日本美術教育連合 (連合フォーラム) と※芸術教育文献アーカイビング

公益社団法人 日本美術教育連合 第2回通常総会

＝ 教育講演会 ＝

日時 平成24年4月22日(日)

会場 聖心女子大学

岡田京子先生(文部科学省)

『学習指導要領全面实施1年を振り返っての成果と課題』

宮坂：岡田京子先生は、文科省にお入りになって1年になります。4月の朝日新聞に音楽と図画工作を一緒にして芸術科にすればいいという紙面があった。そんな乱暴な議論があった。そういうことをとおらせないためにも、岡田先生と連絡を密に取り良い方向に持って行きたいと考えていきたいと思っております。

岡田先生：皆さんこんにちは。文科省の岡田です。よろしくお願ひいたします。今日は2と4だけの日ですね。学習指導要領全面实施1年を振り返ってお話しさせていただきたいと思ひます。印刷いただいた資料について、4つの視点からお話しします。

◆育てたい資質や能力

◆〔共通事項〕

◆言語活動の充実

◆学習指導と学習評価

大切なのは学習の場を評価するということです。

この後は子どもの姿を見ていただきながら・・・

まず、育てたい資質や能力だが、最近先生方の何かが変わってきた。まず、授業や、授業の協議会が変わってきた。最近子どもたちが具体的に力を発揮している場面を通して話し合われることが多くなった。



『ちょうちょのおさんぽ』

この子は、画用紙にちょうちょを悩みながら描き、4つつくった。この右から左の順につくった。①羽が細すぎてぎりぎりまで切ったら切れた②小さすぎた③羽も太くしてみた④羽を太くしたらぎりぎりまで切ることができた。

先生が竹ひごにちょうちょをつけると「ばたばたするよ」といったが、なかなかばたばたしない。それは、はねが大きくないから。そこで子どもたちはつくり直して、ばたばたいうようにつくった。いままででは失敗しないようにそこまで説明していたが、この授業では試行錯誤がうまく入っている。これは学習指導要領の低(2)ウ 身近な材料や扱い方・・・に当たると思う。

『布パラダイス』4年

この子は、布を選ぶ時点で、やりたいことが決まっている。材料を選ぶ時点で 中A(2)

子どもは同じような形をして、悩む。(笑)
中A(2)ウ 表したいことに合わせて、・・・・。
この子の場合、木工用接着剤をつかって、恐竜をつくる。

授業のねらいを明確にすること！
資質や能力を大切にすること！

◎子どもの表現の特徴

北海道1年生の本。子どもが落っこちそうに見える。
チータと子ども。子どもはチータの手を描き足している。チータの手が自分にあたって仲よくしているように付け足した。
「できないことは絵に描けるから」というその子の言葉が印象的。

岡田先生のお子さんの絵

お風呂のどうぐ
サンタクロースの絵
ソファで寝てるママシリーズ(足の表し方・襟)
家族の絵(お父さんが小さく描かれている、でも目線はお父さん)

『わ！すごいしんかんせん』

景色がびゅーんととんでいくところを描いた。右に太陽、左に星。子どもには表したいことがある絵。

【共通事項】で何が変わったか

- ・場の設定が変わった
色水をつかって並べて(白いビニールシートが引いてある・この一手間が大切)色でただ遊んでいるのとは違っている。共通事項の「色を選んで・・・・」ということがわかる。
- ・板書が変わってきた
板書に色・形などの共通事項に書かれている文言が入るようになった。

『箱で車』

下地の段ボールに白を塗る。下地に白をすることで、色がより鮮明にわかるように(発色のために)。線を描きながら形を捉えている。

◎自分の感覚や活動を通して

ここが、弱い(色・形のところにすぐ持って行ってしまう)ここを大切に！

『かみねんどでつくる(しましまの男の子)』3年

→紙粘土は指先で触る材料
ウサギをさわったりする場面をつくる。

『絵の具固まった』

- ・固まった絵の具を使って表す。

◎言語活動の充実

- ・アートカードを使った授業
「読み札を真剣につくる」



◎表現における鑑賞

- ・オノマトペ実践
作品をみて、友だちのよさを知る
最後に、モトナガさんの作品をみる。最後に絵本を読む。
見ることを楽しめるところまで考えてみる。
- ・教師が子どもの隣に座って見られる教科である。
- ・自分が好きな作品が見つかる、辿り着く鑑賞でありたい。

『初等教育資料の表紙の絵』

- ・水島先生「絵の上部が丸く、開いている」
- ・ろうかの突き当たりのドアをかいた子どもの絵。学校のお気に入りの場所を描くという課題。突き当たりのドアの窓から光が差し込むと「希望」に思える。3年生くらいから、「ここを描く」とこの子は決めていたようだ。絵の具は苦手だったが、実際の色に近い仕上がりになったと思います。6年生になったらあれしたい、これしたいというところがあることはすばらしい。

『コンテパステルで鳥』

パサパサって羽の音がしたので、見上げたら、もう鳥はいなかった。
鳥のイメージが、春っぽかったのでピンクにした。

◆学習指導と学習評価

- ・子どもの姿を見ることができる授業
↓
- ・子どもが主体的に取り組むことができる授業
↓
- ・ねらいが明確な授業

評価では、「どんな題材にしようかな？さあ、授業！」、「どんな能力が身についたかな？」、「このところはこう変えよう。」 そういうことが大切。

◎材料・用具

指導要領には、材料を狭めることで発想が深まることがあるとある。確かたくさんあるとい

『鳥と魚』

子どもは、にじんだ、絵の具の量を少なく、素早くというように、少しの時間の中で違ってくる。

先生は親切なので、「にじまないように」といってしまうが、しかし成功体験ばかりでなく、失敗したことから学ぶ姿勢が大切なのは。狙いをしっかりして子どもの学ぶ場を保証してあげればよい

「子どもが選ぶ」これが岡田先生のいまのキーワード。

- ・材料
- ・主題
- ・方法

高学年。小さな紙に好きなモノをスケッチする。最初のはさみ、次にセロハン紙を描く。自分で選ぶと描きたくなる。材料を中心におき、そこから…。

子どもの姿をよくみる

子どもが選ぶ

子どもの体と結びついた

子どもの学びのつながり

子どもの姿をみながら、学習指導要領をみていくととてもわかりやすい。

今日は、4つの視点と、いま視点として出てきたものを描く。

◎質疑応答

○小林 感覚を大切にするということは共感できるが、自明のこととしてスルーされていないか。

○岡田 まず頭で考えるという授業が多い。ものに触って考える、感じて考える部分が大切。これをわかるのは、やはり子どもと一緒につくっている、感じている、考えている先生。それでいてはじめて感じられるのではないだろうか？子どもの姿を見ながら授業改善していくことが大切。

○茂木（群馬） 最近、身体性と即興性について考えている。いま先生のご実践の画像をみながらわかった。もう一つ、他の教科とのすりあわせがなかなかできていないのか、それをカバーできることが大切。

○宮坂 岡田先生有り難うございました。岡田先生の授業を拝見したとき、岡田先生の教室に貼られている画像をみて、すごい先生だと思った。子どもの姿をみて、そこから感じる、考えられる教師が必要であるということを感じました。先生のぶれない信念でぜひ頑張っていたきたい。本日はどうもありがとうございました。

平成 23 年度 事業報告

平成 23 年

4月24日(日)	会計監査 藤崎、山田 両監事による会計監査	
4月24日(日)	理事会 運営委員会	筑波大学附属小学校工作室
5月 8日(日)	第1回通常総会・フォーラム	アルカディア市ヶ谷
5月	内閣府に公益社団法人関係書類提出	理事長 事務局長
6月	連合ニュース1号(通算132)号発行	
7月16日(土)	理事会 運営委員会 選挙管理委員会設立	筑波大学附属小学校工作室
8月28日(日)	理事会 運営委員会 編集委員会	筑波大学附属小学校工作室
9月	連合ニュース2号(133号)発行	
10月16日(日)	第1回(通算45回)日本美術教育研究発表会	東京家政大学
11月22日(火)	造形・美術教育実践セミナー開催	
	埼玉県北本市立東中学校島崙晴美先生の実践	
11月	役員選挙投票用紙発送	
11月	日本美術教育研究論集45 論文応募締切り	
11月	編集委員会(投稿論文を査読者に郵送)	筑波大学附属小学校工作室
11月13日(日)	理事会 論集編集委員会	
	造形美術教育フォーラム	東京都図画工作研究会会長 高橋香苗先生 文部科学省教育課程課教科調査官 東良雅人先生 司会 水島尚喜先生 武蔵野美術大学新宿サテライト
12月11日(日)	理事会 運営委員会 論集編集委員会	筑波大学附属小学校工作室
12月11日(日)	役員選挙 開票	

平成 24 年

1月28日(日)	理事会 運営委員会	筑波大学附属小学校工作室
2月	連合ニュース第3号(通算134号)発行	
3月31日	日本美術教育研究論集45 発行	
3月17日(土)	理事会 運営委員会	筑波大学附属小学校工作室
4月19日(木)	会計監査 藤崎 山田 両監事による会計監査	

貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金	223,272	614,590	△ 391,318
流動資産合計	223,272	614,590	△ 391,318
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図 書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2) 特 定 資 産			
新事業準備預金	26,914	25,221	1,693
特定資産合計	26,914	25,221	1,693
(3) その他固定資産			
敷 金	60,000	0	60,000
その他固定資産合計	60,000	0	60,000
固定資産合計	5,186,914	5,125,221	61,693
資 産 合 計	5,410,186	5,739,811	△ 329,625
II 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	0	548,455	△ 548,455
借 入 金	650,000	550,000	100,000
流動負債合計	650,000	1,098,455	△ 448,455
負 債 合 計	650,000	1,098,455	△ 448,455
III 正味財産の部			
1. 一 般 正 味 財 産	4,760,186	4,641,356	118,830
(うち特定資産への充当額)	(26,914)	(25,221)	1,693
正味財産合計	4,760,186	4,641,356	118,830
負債及び正味財産合計	5,410,186	5,739,811	△ 329,625

正味財産増減計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	0	0	0
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,693	0	1,693
③ 受取入金			
受取入金	18,000	0	18,000
④ 受取会費			
受取正会員会費	995,000	30,000	965,000
受取賛助会員会費	137,500	0	137,500
⑤ 事業収益			
論集広告料	195,000	20,000	175,000
論集掲載料	211,500	0	211,500
⑥ 受取補助金等			
懇親会費	222,000	0	222,000
受取寄付金	777,500	0	777,500
受取利息	39	0	39
雑収益	44,400	0	44,400
経常収益計	2,602,632	50,000	2,552,632
(2) 経常費用			
① 事業費			
消耗品費	3,000	0	3,000
印刷製本費	807,455	594,675	212,780
通信運搬費	126,040	21,270	104,770
諸謝金	55,000	0	55,000
会議費	38,000	0	38,000
雑費	3,870	420	3,450
② 管理費			
会議費	174,948	0	174,948
旅費交通費	9,150	0	9,150
通信運搬費	112,650	0	112,650
光熱水料費	2,100	0	2,100
地代家賃	301,128	0	301,128
懇親会費	364,529	0	364,529
保険料	20,000	0	20,000
消耗品費	4,167	0	4,167
支払負担金	64,900	4,100	60,800
計算書類作成費	304,960	0	304,960
雑費	91,905	0	91,905
経常費用計	2,483,802	620,465	1,863,337
当期経常増減額	118,830	-570,465	689,295
当期一般正味財産増減額	118,830	-570,465	689,295
一般正味財産増減の部	118,830	-570,465	689,295

財務諸表に対する注記

1. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	25,221	1,693	0	26,914
小計	25,221	1,693	0	26,914
合 計	5,125,221	1,693	0	5,126,914

2. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	2,600,000	0
図書	2,500,000	0	2,500,000	0
小計	5,100,000	0	5,100,000	0
特定資産				
新事業準備預金	26,914	0	26,914	0
小計	26,914	0	26,914	0
合 計	5,126,914	0	5,126,914	0

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産					

財 産 目 録

平成24年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金			
	現 金	手 元 保 管	運転資金として	109,451
	通常預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	11,530
	振替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	102,291
流動資産合計				223,272
(固定資産)				
基本財産				
	定期預金	三菱信託銀行上野支店	運用益を公益目的事業に使用する。	2,600,000
	図 書	山形文庫 2,003冊 筑波大学芸術学系保管	調査研究の資料として活用している。	2,500,000
特定資産				
	新事業準備預金	三菱信託銀行上野支店	運用益を法人会計の収入に活用する。	26,914
その他固定資産				
	敷 金	文京区本郷2-30-14	事務所敷金	60,000
固定資産合計				5,186,914
資 産 合 計				5,410,186
(流動負債)				
	借 入 金	宮坂元裕	運転資金	650,000
流動負債合計				650,000
負 債 合 計				650,000
正 味 財 産				4,760,186

会 計 監 査 報 告 書

平成23年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）の事業報告並びに収支計算書につき監査の結果、予算執行、経理事務処理等が適正であることを認めます。

平成24年4月19日

公益社団法人 日本美術教育連合

監事

藤崎典子

平成 24 年度 事業 計 画

平成 24 年

- | | |
|-----------|---|
| 4月19日(木) | 会計監査 藤崎、山田 両監事による会計監査 |
| 4月22日(日) | 第2回通常総会・講演 文部科学省教科調査官岡田京子先生
聖心女子大学 |
| 5月 | 事業局主催『(仮称)鑑賞教育ライセンス講習会』準備会 |
| 6月 | 連合ニュース4号(通算135)号発行 |
| 6月24日(日) | 理事会・運営委員会・講習会準備会 |
| 7月 | 事業局主催(仮称)鑑賞教育ライセンス講習会 第1回開催(予定) |
| 9月 2日(日) | 理事会 運営委員会 編集委員会 |
| 9月 | 連合ニュース5号(136号)発行 |
| 9月～12月 | 事業局主催『(仮称)鑑賞教育ライセンス講習会』
第2回から第5回開催(予定) |
| 10月未定(日) | 第2回(通算46回)日本美術教育研究発表会
同時開催(たとえばアメリカ美術教育協会 NAEA 会長招聘 講演会)
(予定) |
| 11月15日(木) | 日本美術教育研究論集46 論文応募締切り |
| 11月23日(金) | 理事会 論集編集委員会 造形・美術教育フォーラム |
| 12月 9日(日) | 理事会 運営委員会 論集編集委員会 |

平成 25 年

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1月27日(日) | 理事会 運営委員会 |
| 2月 | 連合ニュース第6号(通算137号)発行 |
| 3月31日(日) | 日本美術教育研究論集46 発行 |
| 4月 7日(日) | 理事会 運営委員会 |
| 4月28日(日)
(予定) | 第3回 通常総会
会場未定 |

収 支 予 算 書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	4,000	4,000	0
② 受取入金			
受取入金	30,000	30,000	0
③ 受取会費			
受取正会員会費	1,200,000	1,050,000	150,000
受取賛助会員会費	150,000	200,000	△ 50,000
④ 事業収益			
論集広告料	200,000	200,000	0
論集掲載料	300,000	220,000	80,000
⑤ 受取補助金等			
寄付金収入	200,000	0	200,000
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,085,000	1,705,000	380,000
(2) 経常費用			
① 事業費			
雑給	0	0	0
消耗品費	2,000	2,000	0
印刷製本費	700,000	750,000	△ 50,000
通信運搬費	200,000	280,000	△ 80,000
賃借料費	442,000	50,000	392,000
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	5,000	5,000	0
会議費	15,000	90,000	△ 75,000
② 管理費			
給料手当	0	0	0
会議費	200,000	110,000	90,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	40,000	40,000	0
消耗品費	5,000	5,000	0
印刷製本費	40,000	5,000	35,000
支払負担金	30,000	110,000	△ 80,000
計算書類作成費	200,000	130,000	70,000
雑損失			0
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	1,994,000	1,692,000	302,000
当期経常増減額	91,000	13,000	78,000
当期一般正味財産増減額	91,000	13,000	78,000
一般正味財産期首残高	4,760,186	4,641,356	118,830

【国際局より】

国際局長 大坪 圭輔

国際局平成24年度方針

6月24日開催の理事会、運営委員会において、大坪圭輔が国際局担当理事、仲瀬律久運営委員、長田謙一運営委員、林耕史運営委員、福本謙一運営委員、茂木一司運営委員が国際局担当となりましたのでよろしくお願いいたします。また、これからの活動方針として、InSEA (International Society for Education through Art 国際美術教育学会) との関係強化、東アジア諸国の美術教育関係学会との連携、NAEA (National Art Education Association 全米美術教育協会) との交流について検討いたしました。InSEA との関係強化では、InSEA NEWS の掲載原稿として教育研究発表会などでの優れた論文を推薦すること、東アジア諸国の関係学会や NAEA との交流では、本連合との関わりの深い各国の研究者や実践者との交信連絡の必要性などについて意見が出されました。諸外国団体との交流は、我々の理念や主張を新たな視野で検証し、強化していく上で大きな力となるものですが、本連合の教育実践を核とした美術教育研究という趣旨からするならば、教育実践者同士の交流機会を開発すべきものと考えます。

ユネスコは本年5月21日から27日を、「第1回国際芸術教育週間」とする宣言を出しました。ユネスコ事務局長イリーナ・ボコバ氏はその宣言に寄せて次のように締めくくっています。

「世界が平和と発展への新しい道筋を求めている今、私たちは文化と文化的多様性が持つ可能性を解き放します。芸術教育は、すべての利益のためにこの可能性を開く鍵のひとつです。芸術や創造性は、社会の中心において、それらにふさわしい場を得るに違いありません。」

【事業局より】

事業局長 水島 尚喜

事業局主催の「新企画」をめぐる

今、日本美術教育連合が行なう事業として、どのような内容が望まれているのでしょうか。そして、公益性を担保した事業とは、どのようにあるべきなのでしょうか。連合には国内外の美術教育振興の観点から他の学会組織にはできない役割があります。その一つは理論と実践を結びつけるインターフェース機能であり、事業内容もその観点からの模索が行なわれています。

現在検討中の「鑑賞教育講習会」は、近年の鑑賞教育ブームともいえる状況の中で、しっかりと理論と実践への見識を持っていただくための新企画です。目的（仮）としては、「公教育、特に小中学校の教師が自信を持って鑑賞教育ができ、校外施設の美術の専門家と対等な意識を持つための支援を行う。そのためのライセンスを法人が発行する。」というもので、本年の秋ごろの実施を目指して、折衝等が進行中です。

従来の「文化主義的」な鑑賞教育のみならず、「生きる力」育成の観点による「対話型」鑑賞教育など、価値形成に向けられた様々な方向性が鑑賞教育には存在しています。一方では、ビジュアルカルチャーの海原に生きる現代の子どもたちの状況もあり、参加者の方々には、確固たる羅針盤をこの講習会で形成して頂きたいという思いで企画にもなっています。そしてこの事業が

【 一次案内 】

1965年開催の歴史的な InSEA 東京世界大会を受け、第1回日本美術教育研究発表会を翌年に開催し、理論研究のみならず、実践研究をも重視し発展させてきました。第46回を昨年に引き続き、児童教育・造形表現・服飾美術などの学科も擁し、造形美術表現や教員養成にも力を入れている東京家政大学にて開催いたします。公益社団法人後2回目の今回はさらなる発展を期して、従前の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマの新設、②授業実践ポスター発表（1室に4組が40分の同時発表）、③研究ノートの新設、④発表会改善アンケート（今年度運営反省と次年度企画提案）、以上四つの新たな試みを実施します。美術教育に関する多くの方々の研究発表や参加をお待ちしています。

日本美術教育連合研究局長 山口 喜雄

参加要項

- 開催日時： 2012（平成24）年10月14日（日） 9時～17時30分（予定）
- 会場： 東京家政大学 16号館 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
経路の詳細は同大学HP（http://www.tokyo-kasei.ac.jp/college/col_index.html）を参照願います。
- 参加費等： 参加費は無料、事前申し込みも不要です。会員以外の方でも参加できます。
100部限定『日本美術教育研究発表会 2012 概要集』を当日希望者に500円で頒布します。
- 主催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後援： 文部科学省（申請中）

〈口頭発表〉申込 8/23（木）必着

- 発表資格： 本会会員であること。新規入会希望者は、「入会申込書」を下記の URL から印刷し、「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に、事務局長までお送りください。入会には、会員1名の推薦が必要です。身近に会員がいない場合は下記問合先にご相談下さい。入会時に、入会金3000円および本年度会費5000円の郵便振り込みが必要です。
- 発表時間： 研究発表〈口頭発表〉20分 質疑応答 5分 移動・準備 5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分 質疑応答 25分 移動・準備 5分〔役員会で選定〕
- 発表区分： A群・B群・C群・P群の4区分があり、「研究発表申込書」にどれかを明記して下さい。
A群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です）
B群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文）、C群：研究ノート（同前）
P群：ポスター発表（同前）
- 発表方式： 申込時に希望機器を明記して下さい。①液晶プロジェクター（HD-D-Sub15ピン対応）、②スライドプロジェクター、③実物投影機
配布用のレジュメまたは資料等は、50～70部程度ご用意下さい。
- 発表申込： 「研究発表〈口頭発表〉申込書」の申込期限厳守 2012年8月23日（木）必着
申込書記入は日本美術教育連合 HP 掲載の様式で、E-mail または郵送で送付して下さい。
E-mail 送付先：nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp 山口喜雄（宇都宮大学）宛
E-mail を送信後7日後以内に確認メールがない場合は、念のため再度送信して下さい。
郵送先：〒321-0848 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部 山口喜雄 宛
郵送申込の場合も概要集転記のため下記①～⑦はE-mail で全員必ず送付して下さい。
封書表左下またはメールの見出しに「●2012連合発表申込（氏名）」とお書き下さい。
①発表者氏名・所属先・職位（複数の場合は全員／院生等は課程名・学年も記入）
②発表者連絡先 自宅〒・住所（帰省先も）、電話（携帯）、メールアドレス
③発表区分：A群・B群・C群・P群の別
④発表方式の別
⑤発表題目
⑥概要文（600字以内）
⑦『日本美術教育研究発表会 2012 概要集』1部500円をご希望の方は記入して下さい。
上記不備の場合は〈研究発表〉ができません。メールができない方はご相談下さい。

第46号 日本美術教育研究論集 2013

【 投稿および掲載要項 】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第46回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第46号 研究論集 2013』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限り、ます。
- (1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - (2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
 - (3) 掲載料を期日(2012年11月15日)までに納入していること。
 - (4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
 - (5) 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)・C群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1頁分は、A4横組 2段 23字×44行×2段=2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目 (1) (2) (3)…、小項目 ① ② ③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁(C群のみ6頁も可)とし、掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)は15,000円、院生・学生8,000円です。2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。**
- 口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入) 郵便振込です。
- 加入者名：(公社)日本美術教育連合
- ご依頼人：(〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通信欄：例 掲載料15,000円(一般、8頁)+増頁分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)

〈投稿原稿〉 11/15(木) 必着

- 投稿〆切： 2012(平成24)年11月15日(木)必着。A群・B群・C群とも、
①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
なお、発行日は2013(平成25)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

公益社団法人 日本美術教育連合 入会申込書

(学生・一般)

○で囲んで下さい

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮坂 元裕 様

日本美術教育連合への入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな
氏名 _____ 印

■ 現住所 〒

電話・FAX (自宅) または携帯 _____

■ 勤務先・職名

(学生は学校名・学年(専攻名)) _____

所在地 〒

電話・FAX (勤務先) _____

■ Eメール

■ 帰省先 (※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は以下空欄)

住所 〒

電話・FAX (帰省先) _____

上記の方を会員として推薦いたします。

平成 年 月 日

会員氏名 _____ 印

※ 送付先・問い合わせ先 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校
日本美術教育連合 事務局長 西村 德行 宛
TEL+FAX 03-3946-1962 (区工部直通)
E-mail:tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp

※ 送付と同時に以下の要領で入会金と年度会費の「郵便振込」をお願いいたします。

口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入)

第46回日本美術教育研究発表会2012 研究発表申込書

○で囲んで下さい
(学生・一般)

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮坂 元裕 様

- 日本美術教育研究論集第46号への投稿(有料)が可能です。
モジュール55分発表希望【有・無】(役員会審査、3組選定します)
ご希望の「発表区分」および頁数に○をつけて下さい。
発表区分 A群 理論・実践研究論文(査読あり・要英文サマリー)
B群 実践研究報告等(査読あり)
A・B群 頁数【8・10・12】頁(他、カラー頁有料 挿入可です)
C群 研究ノート【6・8】頁
P群 ポスター発表(役員会審査、4組選定します)
*論集原稿の締め切りは、平成24年11月15日(木)必着です。

「第46回日本美術教育研究発表会2012」での研究発表を申し込みます。

平成24年 月 日

ふりがな
氏名 _____ 印

■ 現住所 〒

電話・FAX(自宅)または携帯 _____

■ 勤務先・職名

【学生・院生は大学名・学年(専攻名)】 _____

所在地 〒

電話・FAX(勤務先) _____

■ Eメール

■ 発表時使用機器 (次の機器が使用可能です。ご希望の機器番号に○印をつけて下さい)

①液晶プロジェクター(HD-D-Sub15ピン対応)、②スライドプロジェクター、③実物投影機

※液晶プロジェクター利用ご希望の方へ:

接続コネクタはHD-D-sub15ピン対応のため、対応する接続ケーブルを各自でご持参下さい。

接続可能か不明の場合は、電気店等でお訪ね願います。

また、プロジェクター以外の機器類(パソコンやMOドライブ、変換ケーブル等)も各自でご持参下さい。

■ 帰省先 (※夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話:現住所が同一の場合は、以下空欄)

住所 〒

電話・FAX(帰省先)

■研究発表申込書郵送先: 〒321-0848 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部 山口喜雄 宛
※封書表左下に「連合発表申込」とお書き下さい。下記メール送信のみも受け付けます。

■申込期限: 平成24(2012)年8月23日(木)必着 (メール送信も左記同日〆切)
※問い合わせ先 E-mail/山口喜雄(宇都宮大学): nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

発表題目 _____

●重要: 上記 山口喜雄アドレス 宛にタイトル「●2012 連合発表申込(氏名)」で、次の1~7を送信願います。

1. 発表者氏名・所属先・職位 (複数の場合は全員/院生等は課程名・学年も記入)
2. 発表者連絡先 自宅〒・住所(帰省先も)、電話(携帯)、メールアドレス
3. 発表区分の別および頁数: A群・B群【8・10・12】頁 C群【6・8】頁 P群

● **日本美術教育連合名誉会員 大和屋 巖 先生** が本年(2012年)2月8日ご逝去されました。

享年93歳でした。大和屋先生は1918年にお生まれになり札幌師範学校をご卒業の後しばらく北海道で小学校に勤務され、その後上京され、都内の小学校に勤務されました。やがて、いくつかの小学校校長を歴任され、ご退職なさいました。その後、東京家政大学にご就職。大学では当時の児童学科児童教育専攻に関わり、今日の基礎を築き多くの小学校教員を養成されました。ご退職後は日本水彩画会で御活躍なさり、1994年には理事長にご就任なさいました。先生は早くから、日本美術教育連合の運営に関わり、発展にご尽力いただきました。大和屋先生の校長室、大学の研究室、また(弟さんの大和屋竺さんのお写真を拝見しますと)ご自宅のアトリエなどは全て整然としていて随所に工夫がなされ、機能的でした。そのお仕事振りも一つの仕事に全力を傾注なさった後は、きっぱりと、その仕事と縁を切り、次のお仕事に全力を注ぐという一生であったように思います。ご逝去の報は、約3ヶ月後にお嬢様からいただきましたが、今にしてみると先生らしいお心遣いであったように思います。先生が後輩に与えた影響は計り知れないものがあり、感謝の気持ちでいっぱいであります。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

● **日本美術教育連合名誉会員 齋藤 清 先生** が本年5月26日にご逝去されました。

享年91歳でした。齋藤清先生は1920年にお生まれになり、1943年東京高等師範学校芸能科をご卒業なさいました。戦後は東京都の新制中学校美術科の創設にご尽力なさり、その後、東京教育大学附属中学校の美術科教官にご就任、長年中学校生のご指導と大学の教育実習生の指導をなさいました。教育実習では、厳しい中に優しさがあり、理路整然と学生に話しかける姿は印象的でした。当時から、日本美術教育連合に積極的にかわり中心メンバーとしてご活躍なさいました。その後、請われて東京都教育研究所指導主事として東京都の教員の質の向上に努められ、多くの優れた教員を育てられました。定年後は、千葉経済短期大学で主として教員養成をご担当なされ、多くの優秀な学生を育てられました。先生は教育統計、教育評価の専門家として文部省から委嘱されたご研究をたくさん残されました。また、教育美術振興会佐武賞選考委員、色彩教育研究会会長を歴任。色彩教育では特に色彩の嗜好調査を長年継続研究なさり、大きな業績をお残しになりました。先生が後輩に与えた影響は計り知れないものがあり、感謝の気持ちでいっぱいであります。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新役員改選結果報告

公益社団法人 日本美術教育連合 第2期役員 が決まりました。

理事長 (代表理事)	宮坂元裕		
理事	大坪圭輔 山口喜雄 水島尚喜		
監事	北川智久 郡司明子		
事務局長	西村德行		
運営委員 国際局	大坪圭輔 (理事)		
	仲瀬律久 林耕史 茂木一司	長田謙一 福本謹一	
研究局	山口喜雄 (理事)		
	天形健 服部鋼資 結城孝雄	小林貴史 山田一美	
事業局	水島尚喜 (理事)		
	石崎和宏 奥村高明 橋本光明	榎原弘二郎 西村德行 (兼任) 藤崎典子	

事務局便り

■平成23年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、計777,500円もの多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

【ご芳名】

市川哲男・榎原弘二郎・江渡英之・大島忠昭・大坪圭輔・開隆堂出版(株)・片桐 彩・川村浩章
(公財)教育美術振興会・蔵西東黄・小林国利・小林昭子・小林貴史・(株)サクラクレパス
佐々木 孝・新日本造形(株)・瀧田節子・立川泰史・丁子かおる・どりん堂・仲瀬律久・長瀬達也
長田謙一・長谷喜久一・中丸哲夫・中村和世・西村德行・(●財)日本習字学会・日本文教出版(株)
橋本光明・服部鋼資・林 耕史・(株)美工堂・(株)美術出版サービスセンター・福本謹一・藤崎典子
ぺんてる(株)・堀 典子・水島尚喜・皆本二三江・宮坂元裕・森山和義・山口喜雄・山田一美
※1名匿名でご寄附 (50音順/敬称略)

■平成23年度 会員の異動

平成23年度退会者

新井哲夫 白井麻美子 佐々木達行 寺澤節雄 長谷川総一郎

平成23年度入会者

小林昭子 多胡慎平 中村仁美 樋口和美 平野英史 平向功一

■平成24年度(2012年度)会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成24年度会費 6,000円 を納入してください。

納入期限 2012(平成24)年 8月31日(金)

*同封の振り込み用紙をご利用ください。(手数料はご負担ください。)

お名前を記載した振込用紙に、**納入済みの方は○、未納の方は-**が印字されています。
ご確認ください。

*第2回通常総会において、年会費及び論文掲載費の改訂が全員一致を持って可決決定されました。つきましては、**本年度より年会費を6000円とさせていただきます。**

すでに本年度以降の年会費をご入金いただいている方は、誠に申し訳ございませんが、差額をあらためてご入金いただけますようよろしくお願いいたします。(振込用紙に差額を記載いたします。)

*平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

▲3年以上の会費未納の皆様へ

*平成23年度から、**過去3年以上、会費未納の方**につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

***納入期限：平成24年8月31日(金)**

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。